

埼玉県PCR検査等無料化事業に参加して 今、強く思うこと

～コロナ禍のコミュニティファーマシーの役割～



株式会社ファミリー厚川 厚川薬局
代表取締役兼管理薬剤師

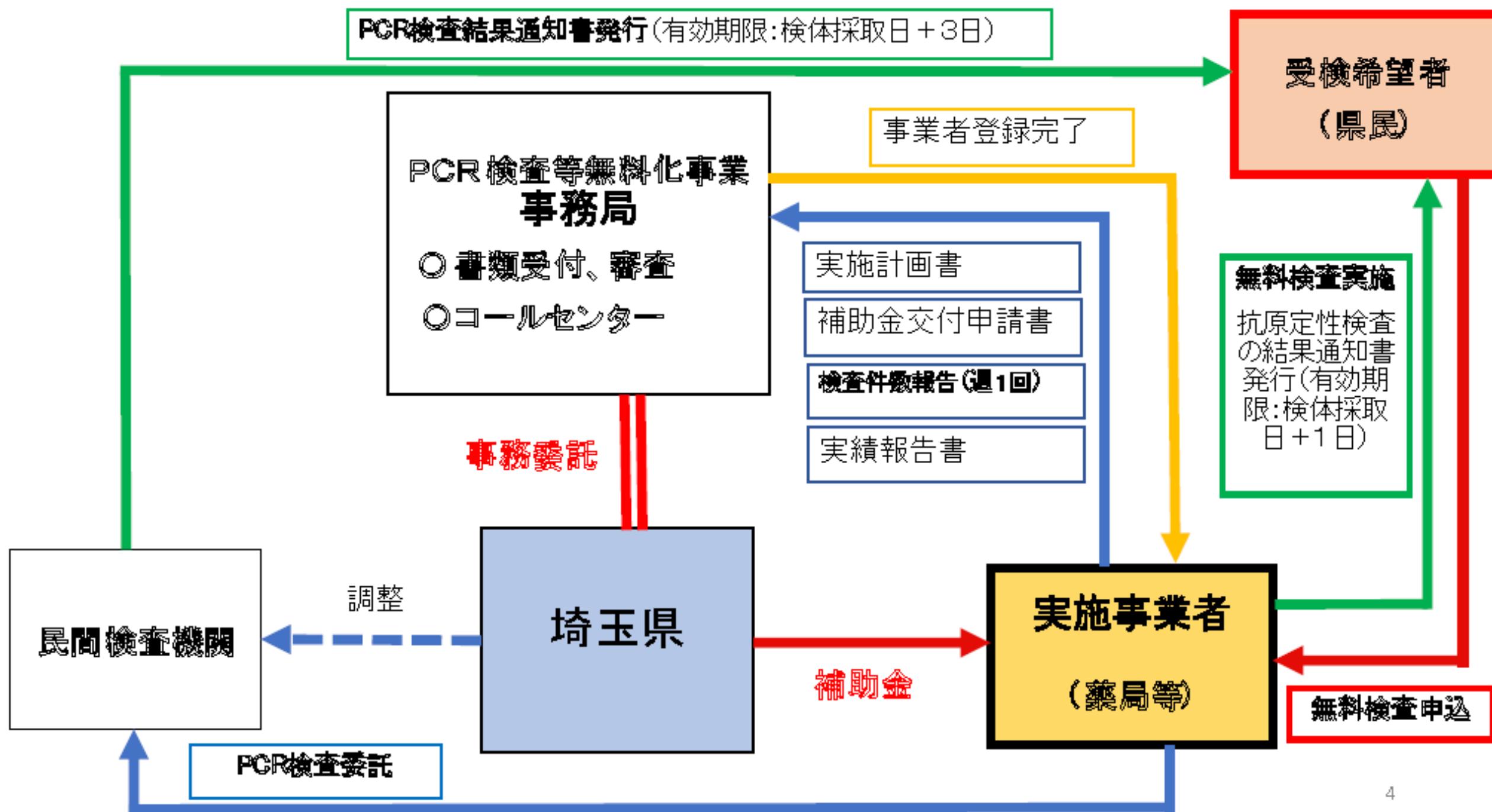
【目的】

2022年1月から、埼玉県PCR検査等無料化事業に参加して、検査者のデータ分析を行った。

今回、新型コロナウイルス感染症のパンデミックについて総括したので、報告する。



2. 業務全体の流れ



埼玉県PCR検査等無料化事業



12月23日:埼玉県PCR検査等無料化事業が始まりました。

無料検査の対象者（**検査対象者が拡大されました！**）

感染リスクが高い環境にある等**感染に不安を感じる無症状の埼玉県民の方**は、県内薬局・ドラッグストアにて無料で検査を受けられるようになりました。

以下3つ全ての条件を満たす場合は、**県内の**薬局・ドラッグストアにて無料で検査を受けられます。

- 1.発熱などの症状がないこと
- 2.感染に不安があること
- 3.埼玉県在住であること（埼玉県在住であることがわかるものをご持参ください。）



①自分が無料検査の対象になるか確認

「1.無料検査の対象者」で自分が対象であるかご確認ください。



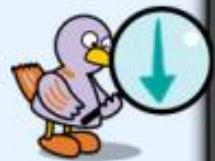
②検査できる場所を探す

「3.実施事業者一覧」で市町村名を選択してお探しいただけます。



③必要な持ち物

氏名、現住所、生年月日が判別できるものをご持参ください。
(例、個人番号カード、免許証、保険証etc..)



④検査場所で検査

検査の種類
(採取は自身で行います)

検査の種類	使用する検体	検査結果判明	有効期限
PCR検査	唾液	1日~2日後 メールや郵送	採取日+3日
抗原定性検査	鼻腔ぬぐい液 (鼻の入り口から2cmほど)	15分~30分 その場で手渡し	検査日+1日

⑤検査結果通知書を使う

有効期限をよく確認のうえ、必要な場所で提示もしくは陰性を確認してください。



万が一「陽性」の結果が判明した場合は
速やかに医療機関を受診してください。



定着促進事業と一般検査事業

事前^にに備えよう！

①定着促進事業

実施期間：～R 4.6月末

大人数の会食、ホームパーティー
小規模イベント、結婚式
高齢者施設等の面会 都道府県間の旅行

事後^にに確認しよう！

②一般検査事業

実施期間：感染状況に応じて実施

社会経済活動

<p>(飲食・イベント・旅行等) 社会経済活動に際し、事前に検査を実施し 陰性結果通知を備えておきたい</p>	<h3>受検の理由</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染リスクの高い場面に居た、場所に出向いた事後に感染不安があり検査したい ・漠然とした感染不安がある
<p>無症状（濃厚接触者は対象外）</p>	<h3>健康状態</h3>	<p>無症状（濃厚接触者は対象外）</p>
<p>住所地は問わない</p>	<h3>所在地</h3>	<p>埼玉県在住</p>
<p>【原則】ワクチン3回目接種未了者 (未接種の理由問わず、1,2回目接種未了も含む) 【例外】ワクチン接種歴問わない ワクチン検査パッケージ・対象者全員検査として 主催者の求めに応じて実施した検査する場合</p>	<h3>ワクチン接種歴</h3>	<p>ワクチン接種歴は問わない</p>
<p>【原則】抗原定性検査 【例外】PCR検査（以下の理由に限る） ・10歳未満の受検 ・高齢者施設入所者や入院患者への面会等</p>	<h3>検査方法</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・PCR検査 ・抗原定性検査 どちらも選択可能

地域の薬局が日頃からの情報法網の大事さ！！

PCR検査キット、抗原検査キットは、共に株式会社TRIB（ロシュ製）にて採用しました。この選び方も大変重要です。この検査会社は、所沢にLABOを持ち、**スタッフの技術力とPCR検査についての情報量**が充実しています。またLABOの職員が回収を行い、翌日の午後には検査結果がメールにて届くのが特徴です。検査者には薬局がメールまたは、電話にて結果を報告します。

《検査会社の選定》



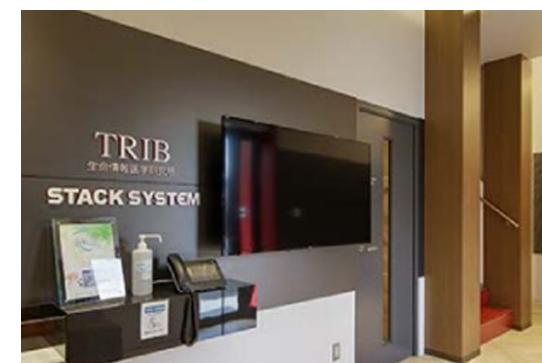
乱立する市中の検査センターにおける実態

新型コロナウイルス感染症の検査特需に商機を見て、急遽、臨床検査事業の経験が無い異業種（建築・通信・雑貨 etc）から参入した事業者の中には、臨床検査において「検査結果を出す」という事の責任の重さや、精度保証・信頼性確保の重要性を本質的にとらえられていない・意識できていない事業者が多く含まれていると強く懸念しています。

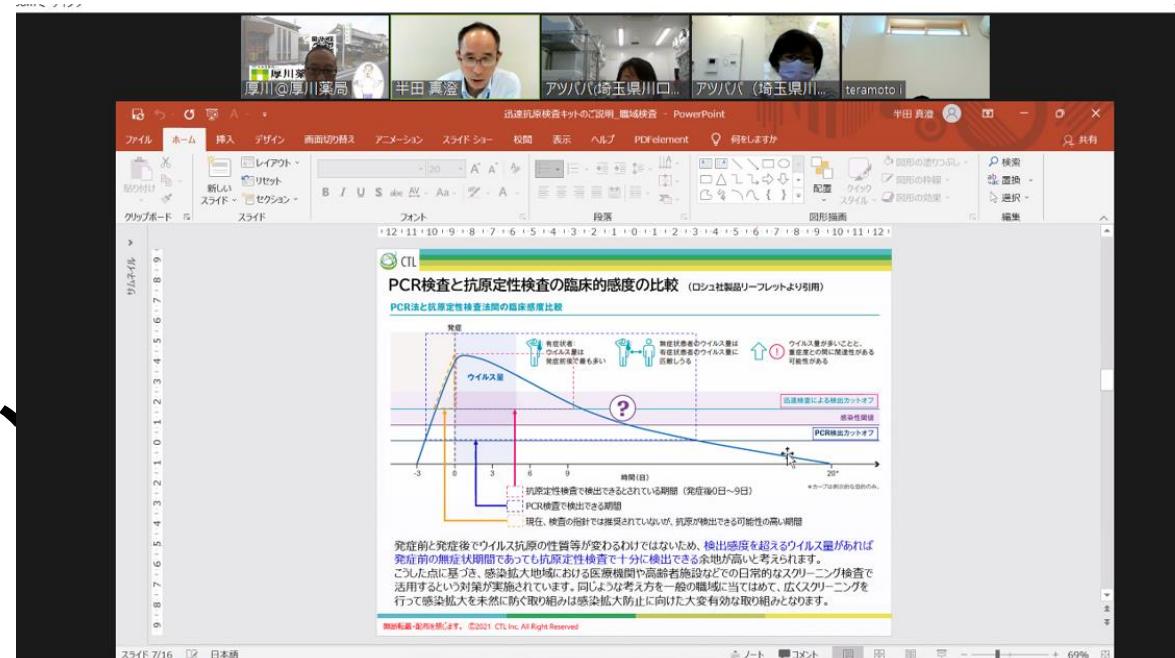
「リスクの大小」といった、とても検査結果とは言えない表現方法を取っている事業者もあり、検査結果に対する責任の所在そのものが曖昧なまま利用されている状況に、検査事業を担う一事業者として大きな危機感を感じています。

遺伝子検査実施に際しては、検体調整、遺伝子抽出、遺伝子増幅、検出という複雑な工程を、それぞれ明確に区分され汚染リスクを排除したエリアで実施すべきものですが、ビルテナントの一角などに急ごしらえで作った簡易ラボで、遵守すべき構造要件や精度管理要件もおざなりにされたまま検査が行われている実態は、検査を依頼する企業や個人様にとって、感染する事に等しいほどの大きなリスクを与えるものと考えております

価格や宣伝に惑わされず、検査にとって最も重要な精度保証・信頼性の視点で測定事業者を選択頂く事が、安全安心の確保につながります。



検体はその日のうちに**検査会社が回収**に
られ、次の日の朝いちで機械にかけるため、
検体採取日の**次の日には結果が判明**。



PCR（スワブタイプ）検査方法

唾液（綿棒タイプ）の検体採取方法について vol.1

【準備するもの】

- ・唾液用綿棒→お使い頂く直前まで、袋から出さないでください
- ・液体入り試験管→検体を不活性化する為の試薬ですので、液体は捨てないでください
- ・酒精綿
- ・油性ペン



唾液用綿棒は上記のような形状をしています。矢印で示した場所だけ少し細くなっています。この場所を「ブレイクポイント」と呼びます。綿棒を手で持つときは、ブレイクポイントから左側を持ち、右側は手で触らないように注意してください。

- ① 飲食や歯磨き、うがい直後の唾液採取は検査に影響を与える可能性があるため避けましょう。目安として**飲食後・歯磨き後・うがい後最低10分以上、できれば30分以上ほど空けましょう。**



<p>② 綿棒を取り出します。先端の綿体に触れないように注意しながら綿棒の軸を掴みながら引き出します。</p>	
<p>③ 唾液を採取します。</p> <p>④ 綿棒の綿体部分を静かに口の中（舌の下）に含み、唾液を十分に染み込ませます。（3分程度） この時綿体を嚙んだり押しつぶしたり、舌で強くこすりつけないように注意してください。</p>	
<p>⑤ 液体入りの試験管のふたを開けてください。</p>	
<p>⑥ 綿体の部分が他の物に触れないように注意しながら、すみやかに試験管に入れてください。</p>	
<p>⑦ 綿棒の軸のブレイクポイントで折り曲げて切断します。試験管のふたを閉めます。 この時ふたが斜めになっていたり、ゆるみがないことを確認して下さい。</p>	
<p>⑧ 酒精綿を用いて試験管の周りを消毒します。消毒した後に油性ペンで氏名・採取日（●月●日）を記載します。</p>	

《検査方法》

薬局内での感染拡大の防止を考慮し、基本的には自動車での来局を想定したドライブスルー方式でPCR検査を行った。
徒歩、自転車で来局した場合も想定し、別棟に検査室を設置した。

検査室による検査



ドライブスルー方式による検査



《結果》

埼玉県無料PCR抗原検査データ(厚川薬局、2022.1~5)

埼玉県無料PCR抗原検査データ(厚川薬局、2022.1~5)													年齢別	資料 2
資料 1 2022.1~5の月別データ													年齢	人数
		1月	陽性者	2月	陽性者	3月	陽性者	4月	陽性者	5月	陽性者	合計		
感染不安	感染不安あり	21	1	24	2	10	1	9	0	5	1	69	0~9歳	35
	症状がある(本人・家族)	5	1	17	3	12	0	9	2	3	0	46	10~19歳	22
	周りで陽性あり	8	0	25	6	19	0	10	1	0	0	62	20~29歳	25
	陽性隔離明け	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	4	30~39歳	37
	持病がある	1	0	1	0	0	0		0	0	0	2	40~49歳	36
陰性証明	帰省・旅行・イベント	0	0	10	2	12	0	6	0	5	0	33	50~59歳	35
	会社・学校からの要請	3	0	11	0	5	1	3	0	1	0	23	60~69歳	21
小計		38		89		60		37		15		239	70~79歳	25
陽性者			2		13		2		3		1	21	80歳以上	3
陽性率			5.3%		14.6%		3.3%		8.1%		6.7%	8.8%	合計	239

1/11からPCR検査を開始し、1月から5月までの検査者は**239名**。そのうち陽性者は21名（**陽性率8.8%**）。

2月の検査者（89名）が最も多く、無症状の陽性者（陽性率14.6%）は検査者の1割以上であった。

年齢別では、**高齢者よりも若い世代が多く、**仕事先や学校、保育園に提出する**陰性証明**が必要なための検査希望者が多くいた。

《考察》

① 1月～2月にかけては朝からひっきりなしの電話対応に追われた。

濃厚接触の疑いや咳、関節痛など多少の自覚症状だけで、発熱がなければ病院の発熱外来は受診できず、**保健所には電話が繋がらない状況で、最終的に薬局を頼って来られることもあった。**

ただ、今回の事業は、**症状がある方は対象外、さらに濃厚接触者も対象外の事業。**発熱者は医療機関は予約がいっぱいで診てもらえない上、濃厚接触者に関しては、**薬局は対象外、検査できる所がないという状況で、困っておられる方が多くいたが、薬局も何も出来ず、そうしてよいかわからない苦しい状況が続いた。**また、**検査者が薬局で検査結果が陽性となると、もう一度病院でPCRの確定検査が必要となる。**これも陽性者にとって心身ともに大きな負担となった。

② さらに、**事業開始の1月～2月にかけては、参加施設が少ない上、全国でPCR・抗原キットの在庫不足が起こり、希望者全員に検査をすることができなかった。**

③ その解決方法として、**薬剤師会や地域包括システムで出会った仲間達で協働していくことが大事であることを痛感した。**

(顔の見える関係⇒無理の言える関係へ)

④ 今回のような100年に一度のパンデミック時では、**薬剤師の潜在的な職能を最大限に発揮して、地域貢献することはとても意義のあることだと考えた。**

⑤ **励みになる患者さんの返信メールが業務の支えになった**